

初期研修プログラム

診療科名： 皮膚科

必ず習得するアウトカム

1. 皮膚科的診察から診断までのプロセスを学ぶ。
2. 真菌直接検鏡などの皮膚科的検査を習得する。
3. 紫外線療法・生物学的製剤投与などの皮膚科的な治療を学ぶ。
4. 皮膚生検・皮膚癌などの皮膚外科手技を習得する。
5. 皮膚アレルギー疾患を研修する（日本アレルギー学会専門医教育研修施設）。

研修目的

皮膚科学的な診察方法、皮膚症状の記載学、皮膚疾患の重症度の判定（特に専門医への紹介の必要性）、皮膚病理学の基礎の習得を通して、EBM を考慮した診療技術の体得を目指す。診断、治療については一般臨床医でも経験する頻度の高い疾患を対象とするが、研修期間中に診察した専門的な疾患のうち重要あるいは貴重な症例については詳細な検討を求める。皮膚科患者の QOL を低下させる病態、症状を理解し、指導医、コメディカル等と協力の上、それらの問題の解決法を検討する。皮膚癌を中心とした皮膚外科的な技術を習得する。日本アレルギー学会専門医教育研修施設でもあるので皮膚アレルギー疾患も研修する。

研修目標

◇ 一般目標

一般臨床医に必要な皮膚科および皮膚外科の診断、治療技術を習得する。すなわち、頻度の高い皮膚疾患の診断、治療を学び、皮膚科医へ紹介すべき重症あるいは難治性疾患を見分ける能力を身につける。皮膚科的検査、皮膚外科手技を習得する。

◇ 行動目標

1. 皮膚疾患の診断に必要な病歴を聴取し記載することができる。
2. 皮膚病変を、発疹学に従い正しく記載することができる。
3. 皮膚疾患の診断に必要な検査（真菌直接検鏡、パッチテスト、ダーモスコピー、皮膚生検等）を選択し、実施することができる。
4. 頻度の高い皮膚疾患、救急外来で経験することが多い皮膚疾患（蕁麻疹、熱傷、感染症等）について、診断・治療を行うことができる。
5. 紫外線療法・生物学的製剤投与の適応疾患を理解し、適切な光線療法・注射を施行することができる。
6. 皮膚生検・皮膚癌などの皮膚外科手技を行うことができる。
7. 興味のある症例について、学会発表や論文作成を行う。
8. 皮膚アレルギー疾患について、研修と研究を行う。

- ◇ 研修期間中に経験可能な疾患・疾病、および手技
以下の領域の疾患が経験可能と考える。

1. 湿疹・皮膚炎（アトピー性皮膚炎）：300 例
2. 蕁麻疹・痒疹・皮膚そう痒症：150 例
3. 紅斑症・紅皮症：40 例
4. 薬疹：30 例
5. 血管炎：40 例
6. 紫斑病・末梢循環障害：20 例
7. 膠原病：40 例
8. 水疱症・膿疱症：20 例
9. 感染症：100 例
10. 皮膚腫瘍：200 例

また、研修期間中に、皮膚生検術を 50 例以上、皮膚外科手術を 20 例以上経験できると考える。

研修方略

1. 研修医は指導医の元で外来・病棟にて診療を行う。
2. 外来診療においては、問診を行い、現症を記載し、指導医のチェックを受ける。
3. 習得状況に応じて、指導医が指示した外来初診患者の診察を行う。
4. 病棟回診を指導医とともにに行い、入院患者の一般的皮膚科処置を経験する。
5. 病棟においては入院カルテの作成を通して、患者の病状の把握、検査・治療の組み立てかたを学ぶ。
6. 週 1 回の手術に指導医の介助として参加し、皮膚外科の基本手技を学ぶ。
7. 生検により得られた病理標本を指導医とともに観察し、皮膚病理診断法を学ぶ。
8. 皮膚科を回った研修医には学会発表と論文作成を義務付けており、学会発表準備方法、論文作成方法を研修する。
9. 日本アレルギー学会専門医教育研修施設として、専門医取得へのステップを習得する。

研修評価

適宜、外来初診患者の診察や病理標本診断に当たらせ、習得状況を評価する。また、指導医が指定した症例や研修医が興味を持った症例について、レポートを作成させて評価を行う。皮膚科関連学会での発表と論文作成を評価する。

週間予定表

	午前	午後	夕方
月	外来診療・病棟診療	手術室を使用した全身麻酔手術・局所麻酔手術	研究（臨床・基礎）
火	外来診療・病棟診療	病棟診療・往診・小手術	研究（臨床・基礎）

水	外来診療・病棟診療	カンファレンス 教授回診	学会発表予行 研究（臨床・基礎）
木	外来診療・病棟診療	病棟診療・往診・小手術	研究（臨床・基礎）
金	外来診療・病棟診療	病棟診療・往診・小手術	研究（臨床・基礎）

（表は、適宜加除修正ください。）

指導責任者および指導医

指導責任者： 川上 民裕

指導医： 高橋 一夫

指導医： 池田 高治

指導医： 横山 華英

指導医： 岩間 英明

指導医： 富田 靖

学生（4～6年生）や他科研修中研修医のカンファレンスの参加の可否

参加可 ・ 参加不可

研修医発表会、学会発表に対する指導体制

指導責任者、または指導医が、適宜適切な症例または研修医が興味を持った症例について研修医発表会や学会発表などを行うよう指導する。

同時期に受け入れ可能研修医数（1クール：1～3ヶ月）

4名/1クール